

## プラザちゅうたい それぞれの思い②

### ～スポーツを教える人～

思い起こせば、市卓球協会が設立された昭和36年当初は、練習場所が太田公民館ただ1カ所で、しかも卓球台は2台のみという状況だったため、とても満足の内練習はできませんでした。

昭和47年に中濃体育館ができると、卓球設備も充実し、思う存分練習ができるようになりました。

現在は、硬式卓球はもちろん、ラージボール卓球にも力を入れ、「ラージボール卓球同好会」を発足させました。40歳から75歳までの会員74人が、元気に練習しています。

このように卓球人口が多いことや、卓球競技が、県内でトップレベルにある理由の一つに「プラザちゅうたい」の存在があることはいうまでもありません。

私にとって卓球は「生涯スポーツ」です。今後、指導者として、また選手としてこの「プラザちゅうたい」でがんばってほしいと思っています。

#### 卓球指導者



高井 良三さん(蜂屋町)

■ 私にとって卓球は「生涯スポーツ」です

#### バドミントン指導者



佐野 康雄さん(伊深町)

■ 楽しむバドミントンを広めていきます

私は「プラザちゅうたい」で22年ほどバドミントンの指導をしています。

私のクラブでは、技術を身につけることよりも、スポーツを楽しむことに重点を置いて指導しています。そしてそれがスポーツを継続することにつながっていくと考えています。

現在は週1回、75人のクラブ員の指導をしています。毎週多くのクラブ員が和気あいあいとした雰囲気の中でバドミントンを楽しんでいます。

そんな雰囲気も手伝ってか、バドミントンを通じて、今まで30組余りのカップルが誕生しました。指導外のことですが、自分のことのようにうれしく思っています。

今後、自分自身が楽しくやっていくことを心がけて、この「プラザちゅうたい」で指導を続けていくと同時に、多くの仲間と「楽しむバドミントン」を広げていきたいと思っています。

#### トレーニング指導者



高橋 昌伸さん(森山町)

■ スポーツは継続することが大切です

「プラザちゅうたい」とは11年のつきあいとなりますが、自分がこれほどトレーニングに引き込まれたのは、この「プラザちゅうたい」があったからにほかなりません。今では、ここに通い、トレーニングをすることが生活の一部となっています。

トレーニングのみならず、スポーツをする上で「継続すること」が一番重要であると同時に、一番難しいことでもあります。

「初心者講習会」でトレーニングの指導を行っています。その講習会を受け、その後トレーニングを継続する人は1割ほどしかいません。続けるということは、そのへんが難しいことなのです。

これからスポーツを始めようとする人は、きっかけは「ダイエット」「へも」「かっこいい体づくり」でも、何でもかまいません。まずは「継続する」「こころを目標にがんばっていただきたい」です。